中山間地の中規模農業者への経営改善支援

・50 代夫婦とパート 2～3 名　・耕地面積 10ha 超　・作付面積 9ha　・販売額 2 千万円台
・作付作目「とうもろこし、キャベツ、インゲン類、きゅうり等の 10 作目前後」
・主要作目「とうもろこし、インゲン 2 種類、きゅうり」、途中「キャベツ」追加で 4.5ha～4.8ha

農業経営コンサルのパートナー会社とともに農業政策・技術・税務・法務等を含めて経営支援を実施。

H28 年に初回経営診断

栽培状況(上記)
財務等(定量分析)
SWOT(定性分析)

強み・弱み(課題)確認

・多作目で管理が行き届かない可能性。
・作目を絞り込むための判断データ不足。
・傾斜地で労働過重。
・鳥獣被害の発生。

・技術力高い、体力有
・販路多数。
・システム業務経験があり、データ管理に抵抗ない。
・奥さん戦力。
・兄夫婦の応援。

H29・H30 年継続支援

※新たな入手データ
・主要の作目別経費データ(勘定科目と連動)
・本人、家族、パート別作業労働時間管理データ

支援提案内容

・作目別、科目別に経費を配分。
・変動費は記録データを配分、固定費は面積案分で配分し、作目別営業利益を算出。
・主要 4 作目の内 3 作目で、営業利益プラスが判明。
・整理した資料を今後の作付面積等の検討材料として提供。
・不足データの確認等。

R 元・2 年継続支援

・R 元年には診断開始以来の最高益計上
・R2 年にコロナが発生し、温泉地の旅館や直売所の減少が懸念。
・主にとうもろこしの鳥獣被害が大きな懸念。

支援提案内容

・ネット販売の提案(以前から提案していたが、コロナを機に具体化)⇒実施(ネット販売の活用)、HP 製作。とうもろこし、野菜セット商品。A 品を選び、単価は通常の 2 倍以上を設定。
・鳥獣被害等では農研機構の実証事業に応募。

R3・4 年継続支援

・農研機構(国立)の「高冷地農業・スマート化実証コンソーシアム事業」を受託(経費助成事業)
※自動走行台車ロボット(リモコン)を使った鳥獣被害の防止と農作業の軽労化・効率化の実証
※対象品目はとうもろこし、インゲン、キャベツ。

コンソーシアム参加企業と実証結果

・代表機関(経理責任者として参加)。
・生産者、無人ロボット開発会社、関連技術検証会社、県関係機関、地元自治体
※定期的に検討会議を開催。
※ロボットの活用による成果は、インゲン等の農薬散布(作業軽労化、被爆なし、減農薬)、肥料施肥(施肥量削減、作業量縮減)、鳥獣被害なし、A 品率向上によるネット販売拡大、労働生産性向上、農業所得率向上等。
※現地試験実施状況･成果は報道機関にプレスリリース。全国の中山間地域に実証成果情報を発信。

R5 年 3 月末現在で、ロボット機器と関連技術等の検証結果、経営状況、予算利用実績等を報告。

R5 年以降ロボットは他の作目に活用・順調に推移

農薬散布

施　肥

鳥獣追い払い